

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 新庄市立北辰小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)

所在地 〒996-0091
山形県新庄市十日町732番地の2

E-mail hokusi-e@city-shinjo.ed.jp
Website http://www.city-shinjo.ed.jp/14hokusin-e/

幼児児童生徒数 男子 58名 女子 61名 合計 119名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳 ~ 12歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

◇テーマ 「イバラトミヨからの発信 守れ! けやきの森プロジェクト」

◇実践の特徴

- 6年間を通して環境学習を中核にした「ふるさと学習」
- 絶滅危惧種の淡水魚「イバラトミヨ」の環境調査及び保護活動
- 「北辰学区元気創出プロジェクト事業」で、大学生・教育ボランティア・保護者・地域の代表とともに「北辰のお宝探し」

北辰小児童が大切にしているものがある。一つは樹齢300年の大ケヤキ、もう一つは絶滅危惧種となっている淡水魚「イバラトミヨ」である。湧き水があり、水温が年中15度位の冷たい水に棲み、巣作りをするめずらしい魚である。学校の近くを流れる指首野川や保全池で見ることができる。本校では「イバラトミヨからの発信 守れ! けやきの森プロジェクト」をスローガンに掲げ、学校のみならず北辰学区の教育資源を活用した「ふるさと学習」を推進している。

① 1・2・3年生の環境教育

1・2年生は、学校近辺の自然観察と、手作りの堆肥を使って野菜を栽培している。3年生は、校地内にある樹齢300年の大ケヤキをはじめ約50種類の樹木から「わたしの木」を選び、一年を通して観察を続け、季節の移り変わりを体感している。

② 4年生の環境教育

4年生は、水槽でイバラトミヨを飼育・営巣観察する他に、保全池及び指首野川をフィールドにイバラトミヨ塾を春・夏・秋・冬の年4回実施している。そして、調査結果を同じユネスコスクールである東京都多摩市東寺方小学校に発信し、交流している。

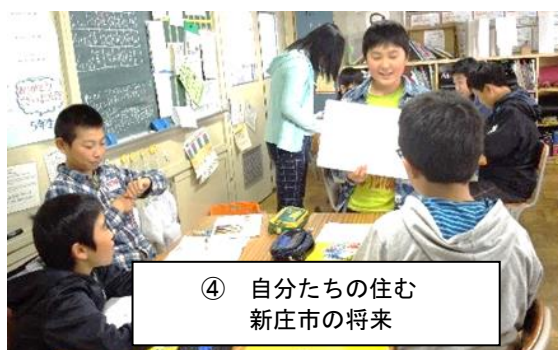
③ 5年生の環境教育

5年生は、PTA手作りの校地内水田で、けやきの森の落ち葉を集めて作った堆肥を活用し、農薬を使わずに「こだわりの北辰米」を育てている。また、学校林に出かけ、枝はらいや下草刈りを通して、森林の果たす役割や働く人の苦勞と誇りを学んでいる。

④ 6年生の環境教育

6年生は「未来の新庄市・未来の私」をテーマに、住みよいまちづくりへの提言をしている。

以上のような6年間の「ふるさと学習」を通して、身近なところから課題や問題を発見し、友だちと協力して探究的に学習していくことで、主体的に学び、考え、判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てるとともに、ふるさとを愛し、自分の生き方を考える子どもを育てることを目標にしている。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

<p>森林学習 ①「我が国の林業の低迷」②「我が国の自然災害」③「野生動物による森林の被害」④「山村問題」⑤「地球温暖化防止と森林の役割」</p> <p>イバラトミヨ ①「自然環境保全基礎調査」環境省生物多様性センター. ②「東北地方の外来生物」(山形県)環境省東北地方環境事務所. ③「国有林管理業務資料」農林水産省林野庁 東北森林管理局. ④山形県基礎データ. ・自然公園、自然環境保全地域、里山環境保全地域 区域図. ・鳥獣保護区区域図</p>

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

① 地域の人々の暮らし、自然や伝統・文化など、身近な社会や生活とのかかわりを重視しながら、各学年のテーマに基づく個人の興味・関心に応じた課題を設定し、解決を図る。

② 生活科・総合的な学習の時間と教科の関連を大切にし、体験的な学習を核に、教科の枠を超えた横断的・総合的な学習、探求的な授業づくりを行う。

③ 地域の人材の育成や地域の教育力などの支援策を充実するとともに、家庭との連携を図る。

④ 育てたい資質・能力は以下のように考えるが、これまでの環境教育の姿勢は継承し、環境を大切にする心やよりよい環境づくりをする習慣・態度の育成や実践にも力点を置く。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

4年生が飼育・観察しているイバラトミヨが水槽内で営巣・産卵を行い、今年度は約90匹の稚魚が孵化し、中川原保全池に放流した。野中・中川原イバラトミヨ保全協議会の協力を得ながら、中川原保全池に生息するイバラトミヨの生息状況や生息環境の現況を把握している。平成18年度より春夏秋冬に実施している。特に4年生は、イバラトミヨの住む指首野川の水質と営巣調査を実施し、山形県農村整備課や新庄土地改良区にイバラトミヨの数を報告している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

活動団体の今後の方向性

本校は平成33年度3月閉校に向けて4月からは残り3年になる。

今後、明倫学区小中一貫教育の推進を進めるため、本校で行われている「イバラトミヨからの発信 守れ！けやきの森プロジェクト」を環境と地域と学校の連携という観点から振り返り、3年後の義務教育学校に引き継いでいきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

本事業の今後の方向性

児童に行ったアンケートにより、示された「環境教育効果」が想像以上に効果的だった。児童アンケートから、「新庄市や地域が好きですか」尋ねたら、平成28年度89%、平成29年度94%と+5%増えた。また、そんな地域で自分の夢や希望を育み、日々努力したいという感想を持つことができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

- ・ 山形大学チーム道草
- ・ 山大エリアキャンパスもがみ
- ・ 山形県農村整備課
- ・ 新庄土地改良区
- ・ 中川原イバラトミヨ保存協議会
- ・ 梅ヶ崎森林組合
- ・ JA新庄

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

東京都多摩市立東寺方小学校と学校間交流を行っています。東寺方小学校・北辰小学校双方の学校紹介を平成29年度も行いました。

平成30年度は、TV会議の実現を目指しています。違う環境にある学校が交流することで、相互理解と発信する力がつくことを願っています。

- ⑧ ユネスコスクール活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

「イバラトミヨからの発信 守れ！けやきの森プロジェクト」は、6年間を通して、自然の変化を身近に感じる場、自然の不思議・すばらしさを発見する場、地域の人々と交流できる場、自然環境を守るために行動する場となりつつある。そして、児童は自然環境に触れるだけでなく、多くの人たちとのかかわりを通して、「命の大切さ」や「人々とのつながりの大切さ」を学んでいる。これからも、自分の生活を振り返り、生き物や自然などの命を大切にし、愛するふるさとを大切にしていこうという児童を育てていきたい。

（3）平成30年度の活動計画

1年 しぜん大すき

・校庭のけやきの森を中心に季節さがしをし、草花や木の実、落ち葉などで工夫して遊ぶ。

2年 学校案内の準備 花ややさいの世話 地域たんけん

・学区の中の地域の自然や人々、公共施設との関わりを広げ、深める。
（すぎのこハウス、まゆの郷、雪氷研究所、野中味噌、堤、神室荘 等）

3年 木のはかせになろう

・校庭にある樹齢300年以上といわれるけやきをはじめ、様々な樹木の観察や働き調べをする。

4年 守ろうイバラトミヨ

・北辰学区（野中・中川原・指首野川）に生息する絶滅危惧種イバラトミヨについて調査・保護活動を行う。また、PCや図書室を活用し、絶滅危惧種やイバラトミヨに関することを調べ、自分達にできることを考え、発信する。

5年 こだわりの北辰米

・実習田を利用してもち米を作り、農業に携わる人々の工夫を知る。
・健康・食の安全を考える。

6年 新庄の未来を考えよう-循環型社会をめざして-

・環境、福祉に関わる新庄市の取り組み（新庄方式）等を調べ、未来への提案をしていく。
・学校全体で取り組んでいるリサイクルシステムについて調べ、家庭・地域へ発信する。